

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調査（平成30年度分）

団体名：宮津市

プロジェクト名	1 観光革命推進による海の京都観光魅力向上プロジェクト	実施期間	平成30年度～31年度	テーマ	地域産業の育成	新規・継続の区分	継続
地域における現状、課題及び住民ニーズ	<p>本市が抱える「人口減少、地域経済の低迷、地域活力の衰退」という3つのマイナスの連鎖を断ち切るため、財政再建と元気づけの両面を(H19～H22)を行い、財政の健全化とみよびビジョン（住んでよし訪れてよしの宮津）の実現を目指す。H23～H27）からの閉化（H28～H32）に向かう取組を進めている。また、まち・ひと・しごと創生法に定める地方創生総合戦略「宮津市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（H27～H31）に基づくパッケージ施策を着実に進め、市民においても、「自分たちのまちは自分たちでつくる」との気持から様々なまちづくりを展開していただいている。市民との協働により宮津の再生を進めていく土台ができてきている。</p> <p>H26～H29と取り組んできたプロジェクトの効果等により、「宮津市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」に定めた観光交流人口（観光入込客数）の基本目標（H31に300万人）をH29で達成することができた。</p> <p>一方で、増加した入込客数の多くが短時間滞在の日帰り客で占められており、地域の魅力向上及びこれに伴う周辺遊歩道の整備が不十分であることから、今後も市・市民・事業者等が一緒になって「みよびビジョン2011」の実現に向け、構造的なマイナス連鎖を断ち切り、市民が元氣、地域が元氣、産業が元氣な宮津市を目指していくことが必要と考えている。</p>						
プロジェクトの目的及び概要	<p>■観光革命推進による海の京都観光魅力向上プロジェクト</p> <p>◆自立循環型経済社会構築への転換戦略を実現するため、「海の京都」構想における本市の戦略拠点である「天橋立」のプッシュアップと、海の京都エリア周辺遊歩道の延長となる浜町地区の賑わいづくりに磨きかけるとともに、景観のみならず歴史・スポーツを含めた地域の観光資源を十二分に活かしたまちなか観光、丹後観光の拠点づくりを進め、観光誘客による外貨をしっかりと獲得していく。</p>						
総事業費（千円）	100,000	本年度事業費（千円）	46,063	交付金額（千円）	22,564		
プロジェクトを構成する事業の平成30年度事業実績（出来高数値等）							
事業分類	事業名	事業種別	事業概要	主な実績（出来高数値等）			
市町村実施事業	海の京都観光魅力向上	交付対象	海の京都DMOと連携し、多様なニーズに対応する魅力的なパンフレットの配布及び近隣市町も兼ねた広域の観光案内業務を実施することで、満足度の向上と海の京都圏域全体消費の拡大を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 観光パンフレット作成支援 外国人観光案内支援等インバウンドの推進 H30観光案内人数93,542人（対前年6.5%増） 			
	地域資源を活用した観光振興事業	交付対象	本市の特徴でもある海や地域文化等の地域資源の活用により、スポーツ体験や文化施設など来訪者の潜在に資する多様なコンテンツを提供する。	<ul style="list-style-type: none"> 海や地域文化を活用した観光振興施設（海水浴場、旧三上家住宅）の運営管理等 			
	浜町を中心とした市街地活性化事業	交付対象	地域経済拡大の基盤となるまちなかの拠点を中心とした市街地活性化	<ul style="list-style-type: none"> 観光交流センターの運営を支援し、観光インフォメーションや地域情報の発信・PRを行った。H30案内人数33,917人（対前年14.7%増） 			
	海の京都観光魅力向上（インバウンド事業）	関連事業	府、伊根町と連携し、国際NO0「世界で最も美しい湾クラブ」を活用した海外PR及び誘客促進を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 「世界で最も美しい湾クラブ」を通じた海外PRを実施 4月：フランス（モンサンミッシェル湾クラブ） 9月：台湾（ポニー） 湾クラブの地域組織「京都宮津湾・伊根湾クラブ」とフランスの地域組織「モンサンミッシェル湾クラブ」との間で、H30.10月に観光協力及び交流に関する協定を締結し、共同チラシやポスターの作成、フランスからのツアー受入などを実施。 			
	海の京都観光魅力向上（魅力ある観光地づくり支援事業）	関連事業	府北部の広域観光振興を担う海の京都DMOの運営支援	<ul style="list-style-type: none"> 市場調査（満足度調査、外国人国籍別入込調査等） プロモーション（ネット配信やHP・SNS等の活用） 着地型旅行商品作成（グランピング・宿泊体験など新商品を開発） インバウンド事業（アジア圏域の旅行振への出席等） 観光人材育成（インバウンドローカルガイド養成講座等） 特産品等のブランド化や販路促進（楽天Eサイト運営等） 			
	海の京都観光魅力向上（観光商業施設整備事業）	関連事業	鮮魚の販売や飲食、水産物の加工体験施設を新たに整備し、周遊型・滞在型観光への転換を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 新鮮な海の産物や練製品体験等が楽しめる観光商業施設「とまとーと」をH30.11月より新規開業。H30の来場者は18,805人。 			
	地域資源を活用した観光振興事業（宮津天橋立周遊観光推進事業）	関連事業	海上交通を活用した周遊ルートの構築及びライアップ等夜のにぎわい創出を推進し、周遊型・滞在型観光への転換を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 海上交通活用 <ul style="list-style-type: none"> 天橋立パーク&クルーズ（宮津橋から天橋立への観光船増便事業）：41日実施 利用者8,603人（対前年9.5%増） 夜の賑わい創出 <ul style="list-style-type: none"> 天橋立まちなり：夏休みの約1ヶ月半に渡り天橋立の夜祭等点灯。35,000人の来場（対前年9.4%増） 成相寺紅葉ライトアップ・紅葉時期の2日間、成相寺境内を点灯。約2,000人の来場（対前年66.7%増） 			
	地域資源を活用した観光振興事業（宮津燈籠流し・花火大会補助事業、城下町宮津七石を「和火」補助事業、丹後まきものまつりin天橋立補助事業）	関連事業	350年続く市最大の催事の開催や、城下町の風情を活かしたライアップイベント等の実施により、周遊型・滞在型観光への転換を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 宮津燈籠流し・花火大会 72,000人（対前年▲5.3%減） 城下町宮津七石「和火」 台風のため中止 丹後まきものまつりin天橋立 1,066人（対前年50.4%増） 			
	地域資源を活用した観光振興事業（北前船道街まちづくり事業）	関連事業	北前船道街の資源再発掘及び日本遺産認定によるブランド化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> H30.5月に、宮津市の北前船道文化財等が、全国27自治体と共に日本遺産に認定。 シンポジウムや日本遺産記念セミナーを開催したほか、北前船道日本遺産推進協議会（認定自治体で構成）にてHPサイトや動画制作、ガイドブックや案内板作成等を行い、資源の魅力を発信した。 			
	浜町を中心とした市街地活性化事業（浜町にぎわいづくり推進事業）	関連事業	海の京都周遊観光の拠点として、道の駅及び地域振興拠点を中心とした浜町エリアの活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 浜町エリアの地域振興拠点（おさかなキッチンみやづ）の運営支援、立体駐車場の管理運営等を実施。 道の駅の入込客数162,965人 			
住民協働事業	まちづくり応援事業（住民との協働による地域づくり）	関連事業	「みよびビジョン2011」と連携した地域づくり計画を策定し、地域主体のまちづくり活動による地域課題の解決に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 地域会議の活動支援 13地区（10万円/地区） 			
住民が取り組む事業	協働のまちづくり推進事業（住民自身が取り組む事業の促進）	関連事業	ふるさと応援寄附券を財源とし、地域住民自身が取り組む事業活動への支援。	<ul style="list-style-type: none"> 宮津まちづくり補助会（市民主体の組織かつ事業に補助）計8事業 総事業費14,664千円 補助額 2,490千円 			
成果指標	成果指標の目標数値	<p>■観光交流人口（H31目標：300万人）</p> <p>H29実績：300万人（総合戦略H31目標を前倒しで達成）</p> <p>H30目標294万人（設定は294万人としているが、前年度に5年間の目標値を達成のため、引き続き300万人以上を目指すもの）</p>		成果指標の実績値	H30観光交流人口：297万人		
	成果指標の達成状況	◎	(左の理由)	<p>今年度の目標数値を達成したため。ただし、市総合戦略におけるH31目標300万人を前倒しで達成したH29より僅かに落ち込み結果となっている。その理由としては、1月の日本産産物や台風被害による影響が大きかったことや、プロジェクト及び関連事業の推進や、国による復興事業「13府県ふっこう周遊型」や「海の京都 ふっこう周遊バス」の取組等により機運に留まった。</p>			
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)	(時期)			
成果指標	成果指標の目標数値	<p>■外国人観光客宿泊数（H31目標：5.0万人）</p> <p>H29実績：3.5万人 → H30：4.3万人</p>		成果指標の実績値	H30外国人観光客宿泊数：4.2万人		
	成果指標の達成状況	○	(左の理由)	<p>H30目標を概ね達成し、H31目標に向けて順調に推移しているため。京都丹後鉄道のJRバス入り、海の京都DMOによる海外PR等が影響したと考えられる。</p>			
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)	(時期)			
本年度の事業実績が成果指標の達成に与えた効果	<p>市総合戦略の具体策である観光革命（観光産業を基軸とした外貨獲得）の推進として、地方創生推進交付金を活用し、市街地と観光地（天橋立）の間に、新鮮な海の幸や練製品体験等が楽しめる観光商業施設「とまとーと」を新たに整備し、市街地と天橋立間の周遊性を強化したほか、海洋資源や文化財等の地域資源を活用した観光振興に取り組み、観光地の魅力向上及び観光誘客を図った結果、H30の観光交流人口は297万となり、定めた目標値を達成できた。また、天橋立駅周辺の観光案内には多言語対応スタッフを常駐させ、インバウンドの受け入れ環境の改善を図ったほか、プロモーションと関連して海の京都DMOとの連携により海外誘客に動かし、さらに府の働きかけによってH29.2に京都丹後鉄道線がJRウェストレールバスのエリアに組み込まれたことなどから、外国人宿泊客数が前年より7,000人増（20%増）の3.5万人となった。ただし、想定していた伸び（目標数値）には及ばなかったため、次年度の目標を達成するために、海の京都DMOと一層連携を図るとともに、観光を中心に磨き上げた資源の海外発信や、京都や大阪を訪れる外国人を北部へ誘導する施策（京都市内宿泊施設へ働きかけ等）を天橋立の多言語パンフレットを数誌する等）に取り組む必要がある。</p> <p>※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応策についても記載すること。</p>						
本プロジェクトに対する自己評価	関連事業との連携効果	地方創生推進交付金を活用し、交付対象事業をより発展させる事業展開を実施することにより、プロジェクトの目的の実現に効果的に寄与することができた。					
	府と市町村等との連携に資する成果	事業における府の補助金等による後方支援はもとより、事業実施にあたっては助言をいただきながら事業を進めることにより、効果的に事業を展開することができた。また、海水浴や旧三上家などの地域資源の活用は、国内外の幅広い観光客に対応するうえで重要であり、海の京都DMOにおいて情報を集約し、近隣の資源と面的に結び周遊性につながる取組を行っているほか、イベント出展やエージェント商談会等において一体的に情報発信を行った。					
	住民の自治意識を高める成果	市民協働事業の実施により、地域住民主体の活動を行うことで、地域住民の中に、地域のことは自分たちでやろうという自覚意識、また地域の中で協力してやろうといった共助意識を高めることができた。					
	リーディング・モデル成果	H26に設置した宮津市観光推進会議を活用し、様々な観光スタイルに対応するための観光事業者の意識改革を行うなど、観光に係る事業全般を強力に牽引した。特に、伸び代が大きい外国人観光客に対する受け入れに向けては、事業者の意識が確実に変わってきており、観光推進会議やDMOにて開催したインバウンドセミナー等へ積極的に参加しているほか、自発的にHPの多言語化を進める事業者が出てくるなど受け入れ環境の向上につながっている。					
	広域的波及成果	関連事業で実施した夜の賑わい創出（夏祭りのライアップ事業）では、宿泊者数の増加はもちろんだが、従来の夕刻の来場者がほとんど無かった天橋立周辺において、多くの方が夜に出歩くようになり、夜も営業する店舗ができるなど民間投資にも結果が出ている。					
	行政改革に資する成果	観光を軸とした地域経済の基盤となる外貨の獲得（「観光革命」）を主目的のひとつに位置づける本プロジェクトにより、将来的な市税収入の増を見込んでいる。来訪者数の伸びに比べて消費額が伸びていないことから、今後の事業展開に当たってはより効果的・効率的な事業実施に取り組むこととする。					
	その他の成果						

(記載要領)

- プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは―を記載すること。

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成30年度分）

団体名：宮津市

プロジェクト名	2 農商工職連携による宮津力活性化プロジェクト		実施期間	平成30年度～31年度	テーマ	地域産業の育成	新規・継続の区分	継続						
地域における現状、課題及び住民ニーズ	<p>本市が抱える「人口減少、地域経済の低迷、地域活力の衰退」という3つのマイナスの連鎖を断ち切るため、財政再建と元気づくりの種まき（H18～H22）を行い、財政の健全化とみやびビジョン（住んでよし訪れよしの宮津）の実現を目指す芽だし（H23～H27）からの開花（H28～H32）に向かう取組を進めているところ。また、まち・ひと・しごと創生法に定める地方版総合戦略「宮津市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」（H27～H31）に基づくパッケージ施策を推進し、市民に対して、「自分たちのまちは自分たちでつくる」との気持ちから様々なまちづくりを展開していただいており、市民との協働により宮津の再生を進めていくことができている。</p> <p>一方で、成果指標に定めた観光消費額は伸びているものの、目標値との乖離が大きく、地域の魅力向上及びこれに伴う地域の稼ぐ力の創出が不十分であることから、今後も市・市民・事業者等が一纏になって「みやびビジョン2011」の実現に向け、構造的なマイナス連鎖を断ち切り、市民が元気、地域が元気、産業が元気な宮津市を目指していくことが必要と考えている。</p>													
プロジェクトの目的及び概要	<p>■農商工職連携による宮津力活性化プロジェクト ◆自立循環型経済社会構造への転換戦略を実現するため、本市の主要産業である観光を基軸に、各種産業への波及効果を高めるための連携組織「農水商工職連携会議」を推進し、地域経済全体の活力を高めていく。</p> <table border="1"> <tr> <td>総事業費（千円）</td> <td>53,000</td> <td>本年度事業費（千円）</td> <td>17,375</td> <td>交付金額（千円）</td> <td>4,034</td> </tr> </table>								総事業費（千円）	53,000	本年度事業費（千円）	17,375	交付金額（千円）	4,034
総事業費（千円）	53,000	本年度事業費（千円）	17,375	交付金額（千円）	4,034									
プロジェクトを構成する事業の平成30年度事業実績（出来高数値等）														
事業分類	事業名	事業種別	事業概要			主な実績（出来高数値等）								
市町村実施事業	里山経済圏の推進事業	交付対象	海・里・山の豊かな地域資源を活用しながら、農林水産業の成長産業化の推進			<ul style="list-style-type: none"> ・世屋高原家族旅行村の利用者数5,377名。メーブルシロップ作りやスノーシュー、化石掘り体験など土地ならではのメニューも実施。H30にはグランピングをメニュー化。 ・市内6小学校の給食における宮津産コシヒカリの使用。 ・オーリーブの生産者拡大のための補助実施 <ul style="list-style-type: none"> ・苗木購入等の初期費用支援（1団体17名） ・植樹数931本（累計2,635本）、加工品等出荷量0.28t ・農地再生及び土壌改良支援（24圃場、1団体12名） ・丹後縦貫林道の除草、側溝清掃 								
	元気な宮津推進事業	交付対象	地元産業の供給力を高める農業振興施策の展開			<ul style="list-style-type: none"> ・農業者等が共同で直接行う農道、水路の補修等に対し必要な原材料（生コンクリート、土のう等）を支給 								
	中小企業・商工業支援事業	交付対象	中小企業等の経営安定化のための支援			<ul style="list-style-type: none"> ・利子補給 24事業者計203千円 ・宮津商工会議所設備改修 								
	里山経済圏の推進事業（里の地域資源活用事業）	関連事業	里の新しい地域資源としてオーリーブに着目し、生産拡大と産業化に向けた運営体制を構築するとともに、オーリーブ産業で活躍する人材の確保を図る。			<ul style="list-style-type: none"> ・栽培・加工技術の向上や京都宮津「パ」の「う」の「だ」化、販路開拓等全体を支援する団体000（オーリーブオイル宮津）への支援。栽培・加工技術向上のための講座開催により生産者数が拡大。また、市内小学校給食でのオーリーブ使用（2回）、市内外イベントや料理教室でのPR（26回）、地元食材とオーリーブによるレシピの試食会（2回）等により普及啓発を行った。 ・地域おこし協力隊活動員 3名（オーリーブ栽培3名）うち1名は任期終了後にオーリーブ栽培農家として就農。 								
	里山経済圏の推進事業（海の地域資源活用事業）	関連事業	市の成長産業として期待する分野において活躍する人材を確保するとともに外部視点による事業推進を図る。			<ul style="list-style-type: none"> ・海の地域資源ナマコを活用するため、資源の生産拡大のための天然採苗の実証や小型魚籠を設置したほか、乾燥ナマコの販路開拓の活動を支援 ・地域おこし協力隊活動員 1名（ナマコの加工支援） 								
	里山経済圏の推進事業（山の地域資源活用事業）	関連事業	竹資源の産業化及び放置竹林の整備による森林環境の改善			<ul style="list-style-type: none"> ・放置竹林の整備2.0ha ・竹の伐採、搬出、管理に取り組む地域竹林整備隊を編成 ・備品の購入、講習会の開催 ・登録数40（個人42、団体1、法人5） 								
住民協働事業	まちづくり応援事業（住民との協働による地域づくり）	関連事業	「みやびビジョン2011」と連携した地域づくり計画を策定し、地域主体のまちづくり活動による地域課題の解決に取り組む。			<ul style="list-style-type: none"> ・地域会議の活動支援 13地区（10万円/地区） 								
住民が取り組む事業	協働のまちづくり推進事業（住民自身が取り組む事業の促進）	関連事業	ふるさと応援寄附を財源とし、地域住民自身が取り組む事業活動への支援。			<ul style="list-style-type: none"> ・宮津まちづくり補助金（市民主体の組織かつ事業に補助）計8事業 総事業費14,664千円 補助額 2,490千円 								
成果指標①	成果指標の目標数値	■観光消費額（H31：150億円） H29実績：97億円 → H30目標：133億円			成果指標の実績値	H30観光消費額：95億円								
	成果指標の達成状況	△	（左の理由）比較対象年度（H29）から微減となり、今年度の目標を未達成のため。観光交流人口の減（300万人→297万人）が影響した。											
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）			（時期）								
成果指標②	成果指標の目標数値	■海・里・山の資源を加工した商品売上（H31：3,600万円） （うちナマコ等育成水産物の出荷額） H29実績：602万円 → H30目標3,200万円			成果指標の実績値	H30商品売上：2,336万円								
	成果指標の達成状況	○	（左の理由）H30目標値に達していないもの、H26:1,810万円からは概ね増加傾向で推移しており、過去5年間で最大値となった。											
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）			（時期）								
※未達成の場合も効果に記載すること	<p>本年度の事業実績が成果指標の達成に与えた効果</p> <p>海・里・山の地域資源活用では、世屋高原家族旅行村の体験商品開発が進み、海の京都DMO等による販売を促進したほか、産業化に向けオーリーブは植樹数や生産エリアが順調に拡大。また、抽出したオーリーブオイルが道の駅海の京都宮津のほか味亭の里などで定番商品化し、加えてオーリーブ振興で愛用していた地域おこし協力隊が任期後に就農するなど、地域経済活性化や観光消費額の増加につながったと考えられるが、折しも観光シーズンで7月に西日本豪雨により被災したことから宿泊のキャンセル等が影響し、国の復興事業による抑制効果もあったものの、年間トータルとしては消費額は減少しなかった。</p> <p>関連事業の農商工職連携事業では商品開発等を実施し、海の地域資源活用事業においては、ナマコ加工品の海外販路開拓に向けたインバウンド向けパンフレットを作成するなど、目標達成に向けたベース部分が整いつつあり、今後は、地域外において宮津の産品が広く知られている状況（ブランド化・定着化）を作り出すことが重要となることから、今後は発信や販路開拓に重点を置く事業展開が必要と考えている。</p> <p>※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方針についても記載すること。</p>													
本プロジェクトに対する自己評価	関連事業との連携効果	国庫補助及び府補助金等を活用し、交付対象事業をより発展させる事業展開を実施することにより、プロジェクトの目的の実現に効果的に寄与することができた。												
	府と市町村等との連携に資する成果	事業における府の補助金等による後方支援はもとより、事業実施にあたっても助言等をいただきながら事業を進めることにより、効果的に事業を展開することができた。												
	住民の自治意識を高める成果	市民協働事業の実施により、地域住民主体の活動を行うことで、地域住民の中に、地域のことは自分たちで行うという自助意識、また地域の中で協力して行うといった自助意識を高めることができ、オーリーブの生産地拡大や、市内事業者での取組も拡大につながった。												
	リーディング・モデル成果	農林水産業の成長産業化に向けた基盤づくりやPRを推進すると同時に、関連事業として地域おこし協力隊の活動を通じた産業の担い手育成や地域調整等が相互に噛み合った結果、委嘱期間終了後の隊員の就農につながった。また、本事業により、地域資源を活用した土地ならではの体験商品も増えつつあり、来訪者の多様なニーズに応えることが可能となる。												
	広域的波及効果	本プロジェクトでは、外部人材である地域おこし協力隊を農林水産業の振興に、商品開発等に市外専門学校をアドバイザーとして迎えるなど、積極的に外部人材を活用しており、より広域的な視点を各事業に用いることができた。												
	行財政改革に資する成果	観光を軸にした地域経済の基盤となる外貨の獲得（「観光革命」）を主目的のひとつに位置づける本プロジェクトにより、将来的な市税収入の増を見込んでいる。来訪者数に比べて観光消費額が少ない（交通アクセス向上により日帰り観光化し、一人当たり消費額が減）ことから、今後の事業展開に当たってはより効果的・効率的な事業実施に取り組むこととする。												
	その他の成果													

（記載要領）

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは―を記載すること。

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成30年度分）

団体名：宮津市

プロジェクト名	3 持続可能な未来を創る宮津環境継承プロジェクト		実施期間	平成30年度～31年度	テーマ	地域産業の育成	新規・継続の区分	継続
地域における現状、課題及び住民ニーズ	<p>本市が抱える「人口減少、地域経済の低迷、地域活力の衰退」という3つのマイナスの連鎖を断ち切るため、財政再建と元気づくりの種まき（H18～H22）を行い、財政の健全化とみやびビジョン（住んでよし訪れてよしの宮津）の実現を目指す芽だし（H23～H27）からの開花（H28～H32）に向けた取組を進めている。市民においても、「自分たちのまちは自分たちでつくる」との気持ちから様々なまちづくりを展開していただいております。市民との協働により宮津の再生を進めていく土台ができあがってきている。</p> <p>これまでのプロジェクトの取組等もあり、宮津湾及び伊根湾が、観光誘客と環境保全を高いレベルで両立している地域として認められ、国際NGO「世界で最も美しい湾クラブ」への加盟を果たすことができたことから、世界遺産登録に向けた活動の推進に弾みがついたところ。こうした下で、今後も市・市民・事業者等が一緒になって「みやびビジョン2011」の実現に向け、構造的なマイナス連鎖を断ち切り、市民が元氣、地域が元氣、産業が元氣な宮津市を目指していくことが必要と考えている。</p>							
プロジェクトの目的及び概要	<p>■持続可能な未来を創る宮津環境継承プロジェクト ◆環境保全啓発やリサイクル活動支援等の継続実施により自立循環型経済社会構造への転換戦略を実現し、本市の自然環境を貴重な資源として後世に残していくための取組の深化を図る。</p>							
	総事業費（千円）	53,000	本年度事業費（千円）	12,721	交付金額（千円）			3,680
プロジェクトを構成する事業の平成30年度事業実績（出来高数値等）								
事業分類	事業名	事業種別	事業概要		主な実績（出来高数値等）			
市町村実施事業	宮津環境継承事業	交付対象	市内の環境保全と生活環境の向上		・みやび環ネットワークへの補助（環境負荷低減を目指すための啓蒙活動、小学生向け環境教室開催等） ・LED灯設置 4基 ・浄化槽維持管理補助 388基 （浄化槽新規設置補助 41基 ※交付金充当外） ・自治会の美化活動補助 15件（ごみ収納施設の設置11件、修繕3件、美化広報看板の設置1件） ・再利用可能な資源ごみの回収を実施した団体に報奨金交付115団体（紙、繊維等：865,471kg）			
	再生可能エネルギー地産地消推進事業	交付対象	自然エネルギーの導入等によるエネルギーの自給、地産地消による食料の自給と福祉需要を市内でまかなえる体制づくり		・住宅用太陽光発電設備設置補助 6件（※交付金は市単独部分にのみ充当）			
	宮津環境継承事業（世界遺産登録推進事業）	関連事業	天橋立の世界遺産登録に向けた機運醸成や天橋立の価値の調査研究等の推進。		・天橋立世界遺産講演会の開催 世界遺産登録に不可欠である顕著な普遍的価値の証明に向け、海外の専門家を招いて現地視察及び意見交換会を開催（府検討委員会事業） ・気運醸成を図る住民組織「天橋立を世界遺産にする会」にてPRや清掃活動等を実施（市事業） ・JR大阪駅にてPR活動を行ったほか、BSテレビで世界遺産に向けた取り組みが紹介されるなど広く発信できた ・天橋立一斉清掃参加者（2回1800名）への周知 等			
	宮津環境継承事業（インバウンド事業）【再】	関連事業	府、伊根町と連携し、宮津湾伊根湾の環境保全、啓発を行う。		・「世界で最も美しい湾クラブ」を通じ、天橋立の環境保全の取り組みを地域内外へ発信。			
住民協働事業	まちづくり応援事業（住民との協働による地域づくり）	関連事業	「みやびビジョン2011」と連携した地域づくり計画を策定し、地域主体のまちづくり活動による地域課題の解決に取り組む。		・地域会議の活動支援 13地区（10万円/地区）			
住民が取り組む事業	協働のまちづくり推進事業（住民自身が取り組む事業の促進）	関連事業	ふるさと応援寄附金を財源とし、地域住民自身が取り組む事業活動への支援。		・宮津まちづくり補助金（市民主体の組織かつ事業に補助）計8事業 総事業費14,664千円 補助額 2,490千円			
成果指標①	成果指標の目標数値	■天橋立を世界遺産にする会会員増（H35目標：10,000人） H29実績：7,054人 → H30目標7,500人		成果指標の実績値（平成31年3月31日時点）	天橋立を世界遺産にする会会員H30：7,071人			
	成果指標の達成状況	△	（左の理由）		本プロジェクトと関連して、地元団体が実施する天橋立一斉清掃（府、市も協力）への参加数はH30実績で1,800人と、住民には環境意識が高いレベルで根付いているものの、7月の豪雨災害等の対応により市外へ会員募集活動が一部できなかったことなど、周知が不十分であったために会員数の目標値は達成できなかった。			
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）		（時期）			
成果指標②	成果指標の目標数値	■水洗化普及率の向上 H29普及率：77.6% → H30目標80.0%		成果指標の実績値（平成31年3月31日時点）	H30水洗化普及率：84.7%			
	成果指標の達成状況	◎	（左の理由）		今年度の目標数値を達成しているため。			
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）		（時期）			
本年度の事業実績が成果指標の達成に与えた効果 ※未達成の場合も効果を記載すること	<p>現在水道部局で重点的に進めているH31の下水道概成に向けた整備事業と合わせ、本事業によって市民の環境意識の向上を図るとともに必要な支援を行うことで、水洗化普及率等の向上につながっている。</p> <p>天橋立世界遺産登録推進事業では、講演会の開催等により、世界遺産登録に対する気運を高めており、天橋立を世界遺産にする会会員数も年々増加しているうえ、長年続けていた天橋立の一斉清掃活動（H30春：42回目、H30冬：12回目）にも多数の参加者を維持している。最近では、一斉清掃の実施をWEB中心に発信していることから、遠方からの参加者もある。</p> <p>H28には、プロジェクトの推進等により、宮津湾及び伊根湾が、観光誘客と環境保全を高いレベルで両立している地域として世界的に認められ、国際NGO「世界で最も美しい湾クラブ」への加盟を果たすことができたこと、また、H30.9月には、世界遺産登録を目指している資源等を紹介するテレビ番組に天橋立が紹介されたことから、世界遺産登録に向けた活動の推進に弾みがついた。</p> <p>※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応策についても記載すること。</p>							
本プロジェクトに対する自己評価	関連事業との連携効果	国庫補助及び府補助金等を活用し、交付対象事業をより発展させる事業展開を実施することにより、プロジェクトの目的の実現に効果的に寄与することができた。						
	府と市町村等との連携に資する成果	事業における府の補助金等による後方支援はもとより、事業実施にあたってはも助言等をいただきながら事業を進めることにより、効果的に事業を展開することができた。						
	住民の自治意識を高める成果	市民協働事業の実施により、地域住民主体の活動を行うことで、地域住民の中に、地域のことは自分たちで行うという自覚意識、また地域の中で協力して行うといった共助意識を高めることができた。						
	リーディング・モデル成果	世界遺産登録に向けた取り組みにおいては、プロジェクトの副次効果である「世界で最も美しい湾クラブ」の加盟（上記）が、日本でも5例目で、環境保全の取り組みを世界に発信できる点で新しい。また、当該クラブはユネスコの関連団体であることから、世界遺産認定に向けた後押しになると期待している。						
	広域的波及効果	天橋立環境継承事業では、「みやび環ネットワーク」（H29より改称。旧みやび環の地域づくり推進ネットワーク）により事業を進めるなど、広域的な視点で事業展開することができた。						
	行財政改革に資する成果	地域資源を活用した新産業創出による歳入の増加を目的としているが、歳入増加に至るまでの結果はでない。事業に要する経費とのバランスを考慮しつつ、事業成果の実現を図ることとする。						
	その他の成果							

（記載要領）

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは―を記載すること。

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成30年度分）

団体名：宮津市

プロジェクト名	4 U1ターン・雇用促進と防災対策による安心安全な生活空間創出プロジェクト		実施期間	平成30年度～31年度	テーマ	地域産業の育成	新規・継続の区分	継続
地域における現状、課題及び住民ニーズ	<p>本市が抱える「人口減少、地域経済の低迷、地域活力の衰退」という3つのマイナスの連鎖を断ち切るため、財政再建と元気づくりの両立（H18～H22）を行い、財政の健全化とみやびビジョン（住んでよし訪れてよしの宮津）の実現を目指す芽だし（H23～H27）からの開花（H28～H32）に向かう取組を進めているところ。市民においても、「自分たちのまちは自分たちでつくる」との気持ちから様々なまちづくりを展開していただいており、市民との協働により宮津の再生を進めていく土台ができあがってきている。</p> <p>H26～H29と取り組んできたプロジェクトの効果等により、「宮津市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」に定めた目標値を上回るペースで成果を上げてきている。</p> <p>一方で、昨秋の2度に渡る台風災害を受け、安心安全な生活空間創出を目指し、防災・減災対策に一層取り組んでいく必要があると強く認識しているところ。</p> <p>今後とも市・市民・事業者等が一線になって「みやびビジョン2011」の実現に向け、構造的なマイナス連鎖を断ち切り、市民が元気、地域が元気、産業が元気な宮津市を目指していくことが必要と考えている。</p>							
プロジェクトの目的及び概要	<p>■U1ターン・雇用促進と防災対策による安心安全な生活空間創出プロジェクト ◆定住促進戦略を実現するため、市内へのU1ターンや定着・定住を促進するための仕組み、情報発信体制の整備等を進めるとともに、定住に必要な条件となる雇用の創出や生活基盤の整備を進める。</p>							
	総事業費（千円）	190,000	本年度事業費（千円）	54,638	交付金額（千円）	27,378		
プロジェクトを構成する事業の平成30年度事業実績(出来高数値等)								
事業分類	事業名	事業種別	事業概要			主な実績（出来高数値等）		
市町村実施事業	U1Jターン促進体制の充実強化	交付対象	定住促進に向けた仕組みづくり			・空き家等改修補助 10件 ・空き店舗改修補助 2件		
	雇用・人材創出推進事業	交付対象	企業誘致の推進を図るとともに地域内での起業の推進、雇用創出のための各種取組			・地元雇用奨励金の給付 1施設 100千円		
	安心安全な生活空間創出事業	交付対象	定住の条件強化となる生活基盤の整備			・自衛消防隊支援 67団体 ・自治会集会所施設整備補助 10件 ・高齢者200円レール利用者数 延べ19,523人 ・高齢者運転免許証自主返納助奨 92人		
	U1Jターン促進体制の充実強化（U1Jターン推進事業）	関連事業	移住希望者へのサポート体制の充実と定住につながるシニアプロモーションの実施、お試し住宅の運営、移住促進特別区域（府指定）内における移住促進事業に対する補助、メディア等を活用した情報発信等の共同事業を実施（北部連携都市圏事業）、空き家実態調査等			・定住実績 12世帯28人 ・移住促進住宅整備 2件		
住民協働事業	まちづくり応援事業（住民との協働による地域づくり）	関連事業	「みやびビジョン2011」と連携した地域づくり計画を策定し、地域主体のまちづくり活動による地域課題の解決に取組む。			・地域会議の活動支援 13地区（10万円/地区）		
住民が取り組む事業	協働のまちづくり推進事業（住民自身が取り組む事業の促進）	関連事業	ふるさと応援寄附金を財源とし、地域住民自身が取り組む事業活動への支援。			・宮津まちづくり補助金（市民主体の組織かつ事業に補助）計8事業 総事業費14,664千円 補助額 2,490千円		
成果指標①	成果指標の目標数値	■定住した世帯数（目標：H26～H31の累計100世帯） H29実績：25世帯（H26～H29計：73世帯） →H30：20世帯（5年目標達成には27世帯）			成果指標の実績値 （平成31年3月31日時点）	H30定住した世帯数：12世帯（H26からの累計85世帯）		
	成果指標の達成状況	△	（左の理由） 問い合わせは多いものの、立地条件や建物の状況などの折り合いがつかず、定住に至らなかったことから、今年度の目標数値を達成できなかったため。					
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）			（時期）		
成果指標②	成果指標の目標数値	■婚活イベントによるカップル数（目標：H26～H31の累計25組） H29実績：25組（総合戦略におけるH31目標を前倒達成） → H30：5組（設定は5組としているが、前年度に5年間目標値を達成のため、引き続き増加を図る）			成果指標の実績値 （平成31年3月31日時点）	H30婚活イベントによるカップル数：16組		
	成果指標の達成状況	◎	（左の理由） 今年度の目標数値を達成しているため。					
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）			（時期）		
成果指標③	成果指標の目標数値	■誘致事業所又は新規出店数（目標：H26～H31の累計25件） H29実績：7件（H26～H29計：19件） → H30：5件以上			成果指標の実績値 （平成31年3月31日時点）	H30実績：4件（H26からの累計23件）		
	成果指標の達成状況	○	（左の理由） 誘致事業所数2件、空き店舗を活用した新規出店数2件で計4件となり、目標を概ね達成できたため。					
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）			（時期）		
本年度の事業実績が成果指標の達成に与えた効果	<p>空家の改修とU1ターンの住居確保を図るとともに、雇用・人材創出推進事業により就労場所及び機会の増加を図った。また、安心安全なまちづくり推進事業により、市全域における安全対策及びより快適な生活基盤の確保に努めた。</p> <p>定住促進につながる環境づくりは着実に進んでおり、新規事業所及び新規出店、定住世帯ともに目標値を上回るペースで確保していることから、転入人口の増加につながっている。事業を継続し、京都府北部連携都市圏の移住促進事業とも連携しながら、対外的なPR強化に取り組む。</p>							
※未達成の場合も効果を記載すること	※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方針についても記載すること。							
本プロジェクトに対する自己評価	関連事業との連携効果	国庫補助及び府補助金等を活用し、交付対象事業をより発展させる事業展開を実施することにより、プロジェクトの目的の実現に効果的に寄与することができた。						
	府と市町村等との連携に資する成果	事業における府の補助金等による後方支援はもとより、事業実施にあたってはも動員等をいただきながら事業を進めることにより、効果的に事業を展開することができた。 <p>定住促進においては、京都府北部地域連携都市圏の移住促進事業（たんたんターン）と連携し、宮津を含む7市町の移住者の様子を映像化し、配信するなど北部が一丸となって取り組みを進めている。</p>						
	住民の自治意識を高める成果	市民協働事業の実施により、地域住民主体の活動を行うことで、地域住民の中に、地域のことは自分たちで行うという自覚意識、また地域の中で協力して行うといった共助意識を高めることができた。						
	リーディング・モデル成果	地域再生計画「京都府北部地域連携都市圏形成推進プロジェクト」（H28-H32）や「多世代交流型「住んでよし」のまちづくり推進プロジェクト」（H28-H32）に基づき、地方創生推進交付金を活用して実施する府北部広域での定住施策の展開に合わせ、本交付事業による雇用対策強化や空き家改修補助等に取り組むことで、定住促進を強固に進めている。また、定住環境整備事業における定住支援空家改修及び空き店舗活用補助等は市の空家バンク制度とも連携するものであり、市の空家対策及びU1ターンに係る各事業を強力に牽引していくもの。						
	広域的波及成果	安心・安全なまちづくり推進事業において、特に公共交通機関に対する事業支援等で府や関係市町と連携し、広域的な視点をもって効率的な事業を実施できた。 <p>空き店舗改修においては、新規出店によりまちの賑わい創出にもつながっている。</p>						
	行財政改革に資する成果	定住促進及び雇用促進は将来的な市歳入の増加が見込まれる事業であり、財政の健全化に資するプロジェクトであると考えている。						
	その他の成果							
	（記載要領）	<p>1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。</p> <p>2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。</p> <p>3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。</p> <p>4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは―を記載すること。</p>						

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成30年度分）

団体名：宮津市

プロジェクト名	5 いきいきとした住みやすいまち推進プロジェクト		実施期間	平成30年度～31年度	テーマ	少子・高齢化	新規・継続の区分	継続
地域における現状、課題及び住民ニーズ	<p>本市が抱える「人口減少、地域経済の低迷、地域活力の衰退」という3つのマイナスの連鎖を断ち切るため、財政再建と元気づくりの種まき（H18～H22）を行い、財政の健全化とみやびビジョン（住んでよし訪れてよしの宮津）の実現を目指す芽だし（H23～H27）からの開花（H28～H32）に向かう取組を進めているところ。市民においても、「自分たちのまちは自分たちでつくる」との気持ちから様々なまちづくりを展開していただけており、市民との協働により宮津の再生を進めていく土壌ができてきている。</p> <p>H26～H29と取り組んできたプロジェクトの効果等により、市全体の子育て・教育環境に対する意識が向上し、昨年には民間ビルを改修した子育て支援施設や利用しやすい図書館の整備、また、学校等教育施設の空調整備など、ハード面の充実にも結果させることができた。</p> <p>一方で、依然として市の出生数は厳しい状況にあり、子育てしやすい環境整備の一層の推進は急務であることに加えて、成果指標に定めた検診率や要介護認定率の達成状況は厳しい状況にあり、一層の取り組み推進が不可欠であることから、今後も市・市民・事業者等が一緒になって「みやびビジョン2011」の実現に向け、構造的なマイナス連鎖を断ち切り、市民が元気、地域が元気、産業が元気な宮津市を目指していくことが必要と考えている。</p>							
プロジェクトの目的及び概要	<p>■いきいきとした住みやすいまち推進プロジェクト ◆次代を牽引する人材育成・子育て環境の充実 定住促進戦略を実現するため、子育て世代の定住を誘引する子育て・教育環境の充実と、将来の宮津の発展を担う人材育成の推進を図る。 ◆地域福祉の絆づくり 定住促進戦略を実現するため、地域医療体制の整備を図るとともに、地域住民による健康づくり活動の活性化及び地域で相互に支えあうための仕組みづくりを進め、全市あげての健康まちづくりを目指す。</p>							
総事業費（千円）	450,000	本年度事業費（千円）	209,757	交付金額（千円）	44,092			
プロジェクトを構成する事業の平成30年度事業実績（出来高数値等）								
事業分類	事業名	事業種別	事業概要		主な実績（出来高数値等）			
市町村実施事業	ふるさとに愛着を持つ次世代リーダー育成事業	交付対象	宮津に愛着を持ち、地域活動の担い手として活躍する人材の育成		・社会科副読本「わたしたちのまち宮津市」（オールカラー108P） 470部 ・漢検受検者 小学校263名 ・学校101環境充実（白西小11教室に於いて1台PC9台、養老小11教室に於いて1台PC12台導入）			
	子ども・子育て支援事業	交付対象	幼稚園・保育園の境上から学校教育環境の強化等まで、子育てしやすい環境の充実		・就学援助（要、準要保護） 小学校240人、中学校100人 ・遠方からの通学児童・生徒へバス定期券等の支給 ・学校給食センター化に伴い、H30の2学期より中学校給食を新規実施。食器、配膳台（40台）の調達及び、災害等で給食センターが稼働できない場合に備えた非常給食の購入。 ・新図書館における書籍充実 約9,142冊			
	地域相互支援の絆づくり事業	交付対象	地域で支えあう相互扶助を推進するための取組		・社会福祉協議会活動支援補助 15,273千円			
	健康まちづくり・安心医療体制推進事業	交付対象	市民の健康増進のための予防等活動、安定的な地域医療体制の確保		・へき地診療の充実 市内4箇所 ・公共施設に設置するAED購入 7個 ・障害者インフルエンザの接種者数 170人			
	子ども・子育て支援事業（地域子育て支援事業、出産安心サポート事業）	関連事業	子どもを預かる会員組織「ファミリーサポートセンター」や子育て支援センターの運営、子育て親子の交流促進事業、妊婦健診等に取り組む。		・宮津市子育て支援センター「にっこりあ」にて、保護者の交流促進、子育てに関する相談・助言、講習等の実施 延利用人数 42,266人			
住民協働事業	まちづくり応援事業（住民との協働による地域づくり）	関連事業	「みやびビジョン2011」と連携した地域づくり計画を策定し、地域主体のまちづくり活動による地域課題の解決に取り組む。		・地域会議の活動支援 13地区（10万円/地区）			
住民が取り組む事業	協働のまちづくり推進事業（住民自身が取り組む事業の促進）	関連事業	ふるさと応援寄附を財源とし、地域住民自身が取り組む事業活動への支援。		・宮津まちづくり補助金（市民主体の組織かつ事業に補助）計8事業 総事業費14,664千円 補助額 2,490千円			
成果指標①	成果指標の目標数値	■年間出生数 H29実績：83人 → H30：130人		成果指標の実績値 （平成31年3月31日時点）	H30年間出生数：92人			
	成果指標の達成状況	△	（左の理由） 年々出生数は減少しており、目標数値を達成できなかったため。					
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）		（時期）			
成果指標②	成果指標の目標数値	■特定健診、がん検診の受診率向上（H32時点でH28比8～12%増） 【特定検診】 H28：42.4%→H29：44.0%（+1.6） 【大腸がん検診】H28：40.9%→H29：39.4%（△1.5） 【乳がん検診】 H28：43.0%→H29：42.5%（△0.5）		成果指標の実績値 （平成31年3月31日時点）	特定健診、がん検診の受診率 【特定検診】 H30：41.8%（H28比△0.6） 【大腸がん検診】H30：36.7%（H28比△4.2） 【乳がん検診】 H30：38.6%（H28比△4.4）			
	成果指標の達成状況	△	（左の理由） 人間ドックを受診する傾向が強まっており、目標値を達成できなかったため。					
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）		（時期）			
成果指標③	成果指標の目標数値	■要介護認定率上昇抑制（目標：基準年であるH28の25.0%以下） H29実績：25.2% → H30：25.0%以下		成果指標の実績値 （平成31年3月31日時点）	H30要介護認定率：25.4%			
	成果指標の達成状況	○	（左の理由） 微増傾向にあるものの、高齢化の進行の割に認定率は抑えられていることから。					
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		（理由）		（時期）			
本年度の事業実績が成果指標の達成に与えた効果 ※未達成の場合も効果を記載すること	<p>本プロジェクトは、子育てから教育までを総合的に充実させ、宮津を担う人材を育成することとしている。市全体の子育て・教育環境に対する意識が向上し、H29に民間ビルを改修した地域子育て支援拠点施設「にっこりあ」には子育て世帯の利用が多数あり、同フロアに整備した図書館も、年間14万8千人の利用実績となった。H30ではさらに、学校給食のセンター化に取り組み、中学校では初めて給食の提供を開始するなど、本プロジェクトと連携し引き続きハード面の充実にも結果させることができた。</p> <p>ただ、まちの賑わいや雇用の創出、移住定住、安心安全なまちづくりなどを一層推進し、人口流出に歯止めをかけた子育て・教育環境の充実を図らなければ、成果指標には反映されていかないため、今後も継続して事業を実施していくことが必要である。</p> <p>※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方針についても記載すること。</p>							
本プロジェクトに対する自己評価	関連事業との連携効果	国庫補助及び府補助金等を活用し、交付対象事業をより発展させる事業展開を実施することにより、プロジェクトの目的の実現に効果的に寄与することができた。						
	府と市町村等との連携に資する成果	事業における府の補助金等による後方支援はもとより、事業実施にあたっては助言等をいただきながら事業を進めることにより、効果的に事業を展開することができた。						
	住民の自治意識を高める成果	市民協働事業の実施により、地域住民主体の活動を行うことで、地域住民の中に、地域での自分たちで行うという自主意識、また地域の中で協力して行うといった共助意識を高めることができた。						
	リーディング・モデル成果	市民との協働により市の再生を目指す本市において、教育環境の充実・人材の育成を目的とする本プロジェクトは地域のリーダーを生み出すことにつながる重要なプロジェクトであり、他の各種事業を牽引するものである。						
	広域的波及効果	-						
	行政改革に資する成果	学校給食のセンター化は、中学校給食の実施において、給食室整備が不要となるなど行政運営の効率化が図れたもの。また、本プロジェクトにより教育環境の充実及び宮津の発展を担う人材育成を推進することは、長期的な視点で市の雇入にプラスになるものである。						
	その他の成果							

（記載要領）

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは―を記載すること。